# 17 世紀オランダの黄金時代の始まり～1621 年　バンダ諸島での虐殺

2021-11-18p 竹本　修文 37 回

**はじめに**

① 16 世紀の日本は戦国時代で、戦いに敗れた主君の失脚を機に発生した多数の**浪人**が東南アジアに職を求めて移住し、17 世紀には関ヶ原の戦いや大坂の陣などで更に多くの浪人が発生し、1633 年の**鎖国令**で海外渡航が禁止されるまで移住が続いた事を投稿してきた。1612 年の**キリスト教禁止令**以降は**平戸**など九州を中心に、カトリックの**洗礼名**で移住している。筆者は、日本国内の戦いに負けたとは言え、浪人は東南アジアから見ても、ヨーロッパ人から見ても、**軍事力**に優れていて、アジア各地の君主国やヨーロッパ人植民地支配者から優遇されて雇用されたと想像している。

② 本年 10 月 10 日付の投稿「**17 世紀のオランダ東インド会社の活動**」の第 2 項の「**オランダの進出**」で概要を述べたが、1996 年 4 月にモルッカ島を訪問した**中城様**から、現地で入手された貴重な 2 冊のご本をご提供頂き、モルッカ諸島のガイドブックは 21 年 11 月 9 日付で既に投稿したが、もう一つの文献 **Indonesian Banda** に、バンダ諸島の現地人、オランダ人征服者、オランダの対抗者イギリス人、そして、現地で雇用された日本人傭兵の事が書かれており、紹介する。筆者が注目するのは、世界有数の香辛料の産地である、モルッカ(マルッカ)諸島の中で、今でも世界的に歴史学者が研究している、「**1621 年**の**バンダ諸島での虐殺**」と、「**1623 年**の**アンボイナ虐殺事件**」であるが、今回は 1621 年の**バンダ諸島での虐殺**事件に焦点を当てる。

③ **16～17 世紀の東南アジア**

・**山田長政**の拠点アユタヤに日本町があった。軍事力に優れ、アユタヤ王国及び近隣の君主に貢献し、1620 年からはオランダ商船を狙う海賊行為を始めた事も以前の投稿で紹介した。

・サラゴサ条約でフィリピンはスペイン領、インドネシアはポルトガル領になったが、ポルトガルはマカオ以外をオランダに奪われた。

・オランダ東インド会社の拠点は**バタビア**（ジャカルタ）にあったが、日本人が居住して日本との貿易をしていた。

・インドネシアには日本町は無いが、モルッカ諸島を含む各地に日本人が居住していた事が分かる。

・日本人居住地の何処に**傭兵**がいたか探りたい。

図 1

④ **地図と地名**　　図 1 の出典：詳説世界史図録（山川出版社）

参考にしている英語の文献と日本語の地図で異なるので、アンボイナとアンボンの両方を使う事をお許し頂きたい。

本稿の「1621 年のバンダ諸島での虐殺事件」は**バンダ諸島**で、次回予定の「1623 年のアンボイナ虐殺事件」は**アンボン島**である。図 2 の出典：世界地図帳新訂第 4 版（平凡社）

図 2

制作：竹本　修文

## 第 1 章　バンダ諸島の征服（1621 年）

図 3　筆者は、ここが**中城様が訪問したが暗くて写真が撮れなかった博物館**（図 5 のネイラ島 NEIRA）と思う。

**1.1**　文献：**Indonesian Banda**　（図 4 の表紙を参照）

①　著者　**ウィラード･A･ハンナ**（Willard Anderson Hanna, 1911 年 8 月 3 日 - 1993 年 10 月 5 日）は、アメリカ合衆国の海軍軍人、外交官、歴史学者。沖縄戦後から約 1 年間、米国海軍軍政府教育担当官として沖縄の教育･文化の振興に尽力した。東南アジアに関する歴史やフィクションの著作家で、教師でもあった。政治学、歴史学、歴史小説の著作がある。

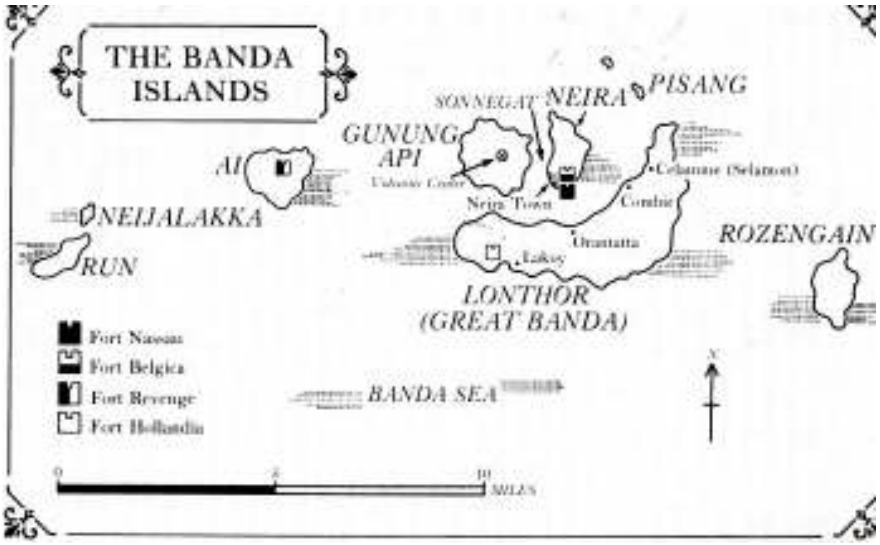
②　立派な歴史書であり、現在のインドネシア歴史書にも採用されていると期待したい。

但し、筆者の興味は、残虐なオランダ**総督のクーン Coen** がジャカルタからバンダ島に連れて行った **80~100 人もの日本人傭兵は誰だったか？、それと、山田長政の軍隊とは関係ないか？**である。

**図 4**　文献の表紙

写真の火山は図 5 中央部の島 **Gunung Api**

**図 5**　バンダ諸島の地図:　**Neira** 島が中心で現地人**部族長**が居住し、 オランダ軍のネイラ要塞 Fort Nassau がある。イギリスは西方の二つの小島 **Run** 島と **Ai** 島に要塞化した商館を建設した。**Lonthor** に香辛料のプランテーションがある。






制作：竹本　修文

**1.2**　1608 年、オランダ海軍ヴェルホーヴェン提督が 14 隻の軍艦を率いて東インド諸島に着任。そこはクローヴやナツメグ等の香辛料を産出する所で、交易か軍事力で手に入れる事が目的だった。1609 年にはバンダ島で探検隊を編成し、提督は 4 月 8 日に最初の 6 隻の軍艦を率いて到着、最終的には更に 6 隻を追加した。少なくとも 1000 人の兵士を指揮し、殆どが優れたオランダ軍人だが、**日本人の傭兵**も含まれていた。ヴェルホーヴェン提督は、島には**イギリス人**がいることが分かり驚いた。　イギリス軍の**ウイリアム・キーリング船長**は堂々と各地の港でオランダ船の動きを偵察していた。キーリング船長は 2 月にはバンダ島に到着しており、イギリス国王の親書を**ネイラ島**の**部族長**に提出していた。親書には装飾された陶器の壺、飾りが付いたヘルメット、最高級の歩兵銃が添えられており、交易の要請がなされていた。

**1.3**　（以前の投稿記事と重複する説明があるが、敢えて省略せずに記載する）

①　バンダ人達はオランダ人が勝手に安値で買い、不要なオランダ製工業製品を売り付け、香辛料をオランダ人以外に売らないように強要し、独占する事にうんざりしていた。そして、1609 年にオランダ人がネイラ島の**要塞** Fort Nassau を強化して威嚇し始めた時にバンダ人達の堪忍袋の緒が切れた。**部族長**たちは、一丸となってオランダ海軍大将と 40 人のトップクラスの軍人を待ち伏せ攻撃して全員を殺害した。（当時は国など自治体は無く、多くの**部族長**が口頭で仕切っていた）

②　イギリスはバンダ諸島から 10～20 ㎞の小さな島、**Run** 島と **Ai** 島（図 5）に要塞化した商館を建設した。彼らはオランダより高い価格で香辛料を買いつつ、オランダの独占権を切り崩そうとしていた。1611 年にイギリスとオランダの緊張が高まり、オランダはネイラ要塞（Fort Nassau）を見下ろす丘の頂上により大きく、より強固なベルギカ要塞（Fort Bergica）を建設した。

③　1615 年には兵士 900 人のオランダ軍はイギリス商館があるアイ **AI** 島に侵入し、イギリス軍は隣の **Run** 島に退却し、軍隊を立て直した。この攻撃の**オランダ軍の中に日本人の傭兵がいた**。同日の夜、イギリス軍はアイ島に奇襲反撃を開始して島を奪還し、200 人のオランダ兵士を殺害した。その 1 年後の 1616 年、ず～と強大なオランダ軍がアイ島を攻撃した。今度は、イギリス軍は大砲で反撃して攻撃を食い止めたが、1 か月の籠城で砲弾を使い果たしてしまい、オランダ軍はイギリス兵を虐殺し、要塞を強化して、「**Fort Revenge** 復讐要塞」と改名した。

**1.4**　ヴェルホーヴェン提督死亡後、オランダ東インド会社（V.O.C.）総督として着任したバンダ諸島征服の指導者の**ヤン・ピーテルスゾーン・クーン**（右の写真）**Jan Pieterszoon Coen**、（以下単に「クーン」と呼ぶ）は、肉体的にも精神的にも強くて実行力がある紳士だった。

総督クーンの描くヴィジョンとは**インドから日本までのアジア全体を征服する事**であった。

島民の抵抗でオランダ人が一人死亡した事を口実に、**日本人傭兵**の協力を得てバンダ人を何回も武力で制圧し虐殺と強制追放を繰り返し、島の人口が急激に減った。バンダ人 2800 人が虐殺され、1700 人が奴隷にされ、残りの島民約 1000 人をバタビア（現ジャカルタ）に追放した。

その結果、バンダ人の抵抗は無くなり、非常に貴重な香辛料の独占貿易が安定して保証される事となった。

**1621 年**、**クーン**はバタヴィアからアンボン、バンダに移動し、2 月 27 日にナッサウ要塞に到着した。10 日以内に大型船 13 隻、3 隻の小型船による通信船と 36 隻のジャンク船による艦隊を編成した。兵士はヨーロッパ人 1,655 人、バンダ駐屯地から 250 人だった。クーンは船の漕ぎ手やポーターとしてジャワ人 286 人、更に日本人の傭兵 80～100 人を雇っていた、その中には良く訓練された処刑人もいた。征服行為は「**バンダ人虐殺** Banda Massacre」として歴史に刻まれた。

飢えと戦いの毎日で、バンダ人達はオランダ人に抵抗を継続する事は不可能と考え、**1621 年**に降伏した。

**1.5**　本年 10 月 18 日付で「**山田長政**」の東南アジアでの活躍の投稿で、「山田長政は、**1620 年**から海賊 Privateer を始めたと言われている。具体的には、オランダの東インド植民地 バタヴィア及びその周辺のオランダ船を攻撃し、略奪していた。」と記載した。つまり、シアム王国のアユタヤ日本町をベースに近隣君主に対して傭兵として働きながら、インドネシアのバタビア（ジャカルタ）に拠点を持つオランダ東インド会社の貿易船を襲って海賊行為をしていたのである。この投稿で参考にした文献はシャアム語が分かるタイの歴史家が書いたと思われる英語の文献だが、著者が分からない。

翌 1621 年にはオランダ東インド会社の**クーン**総督は、バタビアから日本人傭兵 80~100 人の傭兵を引き連れてバンダ島を征服し、抵抗するバンダ人達を処刑した。筆者の見解であるが、この日本人傭兵は山田長政の軍隊だと思う。

## 第 2 章　バンダ島における処刑

### 2.1　バンダ諸島の状況

オランダの香辛料取引の最初の拠点はバンダ・ネイラであった。図 6 は、諸島の各地からバンダ人達がナツメグなどを持ち込んできて秤にかけて取引を行っている様子。図 5 の中心部を図 7 に示す。

図 6

オランダ東インド会社（V.O.C.）総督でバンダ諸島征服の指導者の**ヤン・ピーテルスゾーン・クーン**は、ネイラ NEIRA 島の要塞を拠点にした。

クーン総督の方針は、香辛料の主要なプランテーションがある LONTHOR 島のいくつもの**部族長**の内の不服従者をインチキ裁判 Kangaroo Trial で有罪にして処刑し、一般人 883 人をジャワ島のバタビアに奴隷として売った。内訳は、男 287 人、女 356 人、子供 240 人だった。

図 7

LONTHOR の Orantatta から軍隊を上陸させ Celamme, Combir,Lakoy を征服した。総督クーンは、Celamme を島の本部にした。

現地人社会は、国の概念はなく、**部族長**を中心の社会で、取引も口約束であり、オランダ人の論理で虐待されており、島の崖に追い詰められて飛び降り自殺者の様子など生々しく書かれている。アメリカ人の著者　ウィラード・A・ハンナ氏は、将来のインドネシア人国家の歴史書の一部にする期待を持って執筆したと推察する。

### 2.2　1621 年 5 月 8 日の処刑

処刑は各地で何回も行われたが、ネイラ島の博物館に展示されている絵（図 3 、7）の処刑は、ネイラ島の要塞 Fort Nassau で行われたものである。城の外に竹で作られた円形の処刑場に連行された囚人は 44 人で、綱で縛られて守衛に囲まれていた。「平和の掟を破り、総督の命を狙う陰謀を働いた」等と罪状が読み上げられ、囲いの中に 6 人の日本人兵士が鋭い刀を持って入れられ、**部族長**の中のトップ 8 人を斬首して八つ裂きにし、続いて 36 人を斬首して八つ裂きにした。

図 7

首は竹槍に刺して展示された。引用している文献、**Indonesian Banda** は A 5.判で 170 ページの歴史書である。オランダ人が香辛料を独占すべく侵略する部分だけでも 70 ページ程あり、残酷な表現は多々あり、抜粋は最小限に留める。

## 第 3 章　オランダでの反応

**3.1**　オランダの港町**ホールン** Hoorn は、17 世紀には、オランダ東インド会社の重要な港湾の一つとなり、アムステルダムやロッテルダムと並び、同社の 6 つの支社のうちの一つがこの街に置かれた。町の中央広場に**クーン総督の銅像**が立っているが、これは 19 世紀の末に当時の国粋主義者達が歴史上の英雄を探していて、クーン総督に注目し、1893 年に建立したものだった。
そして、その時から、クーン総督のリーダーシップで 1621 年にバンダ諸島を植民地化し、香辛料の独占的貿易でオランダに 17 世紀の黄金期を齎したのだから、400 年後の 2021 年には大きな記念行事が期待されていた。

**3.2　しかし、現実は**：

2020 年 5 月にアメリカのミネアポリスで起きた白人警官が黒人を首締めで殺害した事件を発端に世界的な**#BlackLivesMatter** 運動が起きて、オランダのクーンの銅像があるホールン市の 駅前に群衆が集まり、奴隷貿易から始まり、クーンの残虐な植民地活動も非難の対象になった。

国立アムステルダム美術館の展示物に至るまで、議論・非難の対象になり国中が歴史の勉強を始めた事は良かったと思う。
しかし、筆者の対象は、1621 年のバンダ諸島の虐殺と次回投稿予定の 1623 年のアンボイナ虐殺事件であり、その後 3 回に亘って戦われた英蘭戦争やその後の奴隷貿易まで含んだ議論は紹介しない。
「奴隷貿易」と言えば、一般には、2020 年 4 月に投稿した、「リバプールと奴隷産業」の範囲であり、クーン総督が関わったバンダ諸島のバンダ人をバタビヤ等に奴隷として売った事実は今回の投稿には含めない。

**3.3**　クーン総督の銅像撤去を求める、平和的なデモの呼びかけポスターだが、右翼のクーン総督を称えるデモ隊も加わり、平和的とは言えない暴動に発展した。

**A peaceful demonstration on 19 June 2020 in Hoorn**

for the removal of the statue of

**Jan Pieterszoon Coen クーン総督**

次回で本当にモルッカ諸島は終わります。　勉強になりました。　　以上　　竹本　修文